

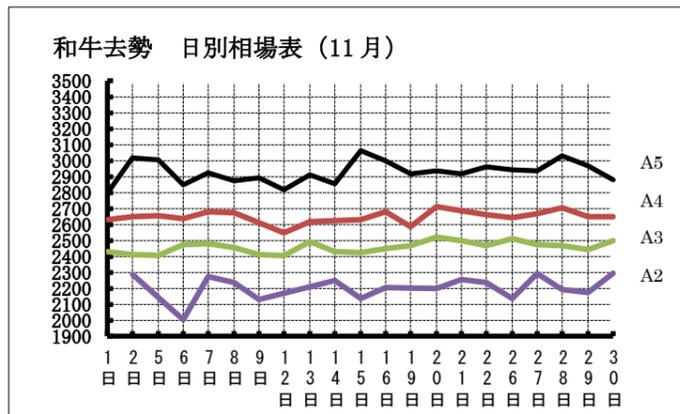
月刊しばうら

2018年12月号

大動物事業部

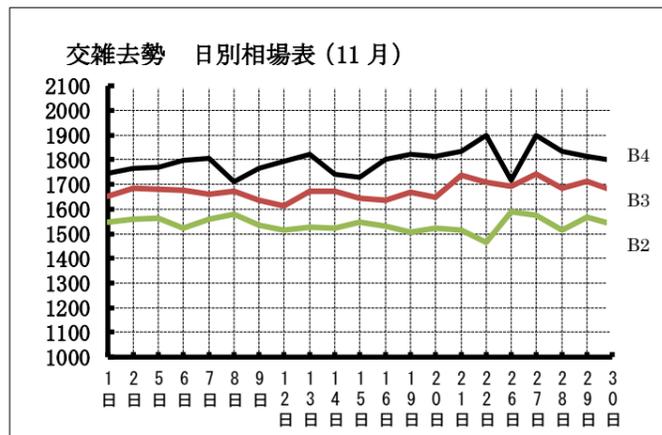
＜11月の相場動向＞

11月の牛枝肉相場は、和牛去勢 A5 が前月比 48 円高の 2,937 円（前年同月比 85 円高）、同 A4 が 109 円高の 2,653 円（同 125 円高）、同 A3 が 160 円高の 2,461 円（同 245 円高）、同 A2 が 49 円高の 2,197 円（同 378 円高）、交雑種は去勢 B4 が 41 円高の 1,795 円（同 143 円高）、B3 が 64 円高の 1,674 円（同 241 円高）、B2 が 66 円高の 1,541 円（同 366 円高）となった。全国的な頭数不足感の中で今年は早めの動き出しとなり、月後半から良いものへの引き合いが強まり、和牛は 3・4 等級で上伸。交雑牛は量販店需要の強い 2 等級を中心に堅調な相場となった。



和牛去勢 (月平均)

| | | | |
|----|---------|----------------|--------------|
| A5 | 2,937 円 | (前年同月比 103.0%) | (前月比 101.7%) |
| A4 | 2,653 円 | (" 104.9%) | (" 104.3%) |
| A3 | 2,461 円 | (" 111.1%) | (" 107.0%) |
| A2 | 2,197 円 | (" 120.8%) | (" 102.3%) |



交雑去勢 (月平均)

| | | | |
|----|---------|----------------|--------------|
| B4 | 1,795 円 | (前年同月比 108.7%) | (前月比 102.3%) |
| B3 | 1,674 円 | (" 116.8%) | (" 104.0%) |
| B2 | 1,541 円 | (" 131.1%) | (" 104.5%) |

乳牛去勢 (月平均)

| | |
|----|-------------------------------------|
| B3 | 上場なし |
| B2 | 1,038 円 (前年同月比 101.2%) (前月比 106.2%) |

＜12月の牛肉輸入量予測＞

| 輸入牛肉通関量 | 10月 | 前年同月 | 前年同月比 | |
|---------|-----|--------|--------|--------|
| チルド | 豪州 | 11,067 | 9,626 | 115.0% |
| | 米国 | 10,942 | 11,651 | 93.9% |
| | その他 | 1,670 | 1,120 | 149.1% |
| | 合計 | 23,679 | 22,397 | 105.7% |
| フローズン | 豪州 | 14,055 | 11,306 | 124.3% |
| | 米国 | 10,622 | 7,490 | 141.8% |
| | その他 | 3,064 | 2,153 | 142.3% |
| | 合計 | 27,741 | 20,646 | 132.4% |

単位：t 出典：食肉速報

財務省の貿易統計によると、10月の輸入牛肉通関量は、前年同月比 18.6%増の 5 万 1,420 t で、フローズンは 32.4%増、チルドは 5.7%増とともに前年を上回った。前月からチルドは 2,900 t 増加した一方で、フローズンは 3,700 t 減少し、6月以来 4 カ月ぶりに 3 万 t 台を割った。農畜産業振興機構の予測による 12 月の牛肉輸入数量は、前年比 0.4%減の 4 万 6,800t と予測している。チルドは 3.4%減の同 2 万 2,600t。フローズンは米国产の増加が見込まれることから、2.9%増の同 2 万 4,200 t と前年を上回ると予測している。

＜12月の全国出荷頭数予測＞

食肉流通統計による 10 月の全国の成牛と畜頭数は前年同月比 2.1%増の 9 万 2,363 頭となり、内訳をみると和牛は 4.6%増の 3 万 8,943 頭と伸長。乳用種は 1.3%減の 3 万 1,008 頭で、乳去は 5.2%減と引き続き昨対減が続いており、乳牝は今年に入って初めて 1 万 5,000 頭を超えた。交雑種も 1.8 増の 2 万 1,415 頭となり 3 カ月ぶりに 2 万頭を超えている。農畜産業振興機構による 12 月の出荷予測頭数は、前年比 2.0%減の 9 万 8,200 頭と予測している。品種別にみると和牛は 1.9%増の 4 万 7,000 頭と増加となっているものの、交雑種は 1.6%減の 2 万 3,000 頭、乳用種は 8.5%減の 2 万 6,700 頭と減少を予測している。東京食肉市場の 12 月のと畜頭数は 7,800 頭を予定している。

＜12月の牛枝肉相場見通し＞

相場の上昇が期待できる時期となり、和牛、交雑牛とも強気な相場形成が予測される。ただ、中旬以降に和牛の上物規格については相場が緩む可能性も示唆されており、枝肉の作りにより価格差が広がる相場が予測される。また、消費者の低価格志向は根強い状況にあり、和牛 2・3 等級や交雑牛の需要は強く、堅調な相場が予測される。

| 和牛去勢 | 価格予測 | 交雑去勢 | 価格予測 |
|------|-------------|------|-------------|
| A5 | 2,850～2,950 | B4 | 1,800～1,850 |
| A4 | 2,600～2,700 | B3 | 1,650～1,700 |
| A3 | 2,400～2,500 | B2 | 1,500～1,550 |
| A2 | 2,150～2,250 | | |
| 乳牛去勢 | | | |
| B3 | 1,100～1,200 | | |
| B2 | 1,000～1,100 | | |

単位：t 出典：食肉速報

小動物事業部

農畜産業振興機構 9 月の豚肉需給動向によると、推定出回り量は、国産品 6 万 7,772t (同 95.9%)、輸入品 7 万 7,309t (同 98.4%)、合計で 14 万 5,081t (同 97.2%) と前年同月を下回った。9 月の輸入量が 6 万 8,872t (同 94.5%) と少なかったことから、推定期末在庫は国産品 1 万 8,048t (同 118.5%)、輸入品 14 万 9,511t (同 95.9%)、合計 16 万 7,559t (同 98%) となった。

10 月の全国と畜頭数は前年同月比 5.1%増の 150 万 869 頭と前年より増加した。同月の豚肉通関実績は、総量で 8 万 4,050t (107.1%) と前年を上回り、前月から大きく増加となった。チルドは 3 万 5,760t (同 108%) と増加。内訳は、米国が 1 万 7,556t (同 104.7%)、カナダは 1 万 7,239t (同 111.9%)、メキシコが 959t (同 101.4%) 増。同じく、フローズンも 4 万 8,290t (同 106.5%) と増加し、内訳は、デンマークが 1 万 199t (同 98.5%)、スペインが 9,552t (同 105.5%)、メキシコが 8,442t (122.8%)、米国が 4,395t (同 103.7%)、カナダが 3,374t (同 126.3%) となった。

＜11月の豚取引の推移＞

| 上旬 | 全国と畜頭数 | 上物価格 | 中物価格 | 上場頭数 |
|----|--------|------|------|-------|
| 1日 | 68,300 | 455 | 428 | 892 |
| 2日 | 66,700 | 442 | 416 | 1,041 |
| 5日 | 66,500 | 422 | 405 | 902 |
| 6日 | 69,000 | 445 | 417 | 891 |
| 7日 | 66,200 | 447 | 416 | 754 |
| 8日 | 68,100 | 426 | 409 | 887 |
| 9日 | 67,700 | 427 | 398 | 1,031 |

全国と畜頭数 6 万 7,500 頭/日。当市場平均 914 頭/日。

出荷頭数は安定し、相場は落ち着いた展開が続いている。

11 月に入ってもなかなか気温は下がらないが、バラは堅調な荷動きとなっている。一方、ロースやヒレなどロイン系のアイテムの荷動きは鈍く、価格も下落傾向となった。

| 中旬 | 全国と畜頭数 | 上物価格 | 中物価格 | 上場頭数 |
|-----|--------|------|------|-------|
| 12日 | 68,300 | 427 | 400 | 813 |
| 13日 | 69,500 | 450 | 412 | 942 |
| 14日 | 68,700 | 454 | 413 | 751 |
| 15日 | 68,800 | 445 | 422 | 846 |
| 16日 | 70,100 | 427 | 405 | 972 |
| 19日 | 70,200 | 444 | 415 | 729 |
| 20日 | 72,100 | 436 | 400 | 1,060 |

全国と畜頭数 6 万 9,671 頭/日。当市場平均 873 頭/日。

三連休の影響もあり全国と畜頭数は 7 万頭を超える日が続いた。また、全国的に気温は低下しており、鍋物商材の荷動きが本格化している。荷動きの中心となっているのはバラではあるが、カタロースもまずまずの荷動きをみせている。また、フローズンは、在庫もそれなりにあるため、一部では投げられるケースもでてきている状況。

| 下旬 | 全国と畜頭数 | 上物価格 | 中物価格 | 上場頭数 |
|-----|--------|------|------|------|
| 21日 | 71,700 | 448 | 417 | 857 |
| 22日 | 72,000 | 444 | 413 | 955 |
| 26日 | 68,800 | 425 | 408 | 809 |
| 27日 | 70,900 | 441 | 417 | 819 |
| 28日 | 68,500 | 445 | 419 | 857 |
| 29日 | 69,600 | 438 | 415 | 918 |
| 30日 | 70,000 | 447 | 419 | 933 |

全国と畜頭数 7 万 0,214 頭/日。当市場平均 878 頭/日。

引き続き出荷頭数は安定していることもあって、相場は軟調な展開が続いている。

11 月も下旬となり、いよいよ寒さが本格化し、鍋物需要が高まっていることから、引き続きバラの荷動きは堅調だが、カタロースは徐々に荷動きが鈍ってきた。一方、ロースは量販店の売り場で特売が組まれるケースもみられるようになってきたため、荷動きは良化傾向となってきた。

＜12月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による 12 月の全国と畜頭数予測では、前年比 2%増の 149 万 2,000 頭、2019 年 1 月は前年同の 138 万 9,000 頭と予想している。当市場の 12 月の集荷予定頭数は 1 万 7,500 頭となっており、一日当たりでは約 921 頭の見込みである。

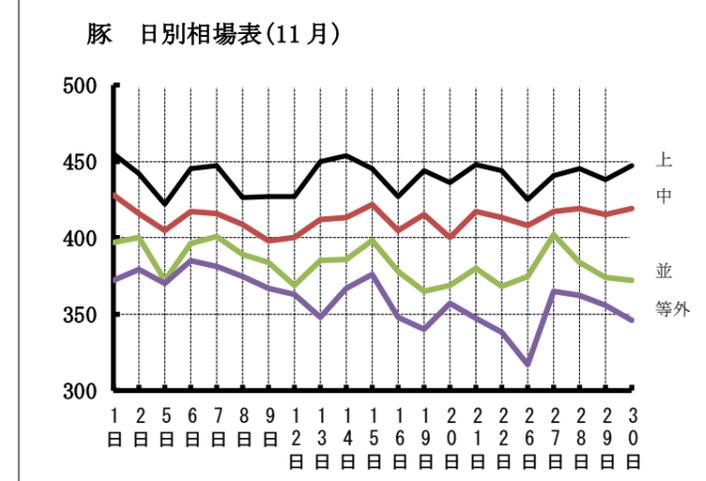
また、農畜産業振興機構によると 12 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 7 万 8,300t (同 94.2%)、内訳はチルドが 3 万 4,900t (同 94.2%)、フローズンは 4 万 3,400t (同 94.2%) の予測である。

東京では木枯らし 1 号が吹かずに 12 月入りした。12 月は量販店などで国産豚肉の特売が増え、バラやカタロースといったアイテムを中心に良化傾向となることが予想される。ロースの荷動きも 11 月下旬あたりから徐々に上向き傾向となっているが、年末に向けた需要というより価格が下がったことにより国産へシフトしている様である。また、下旬には冬休みで学校給食が中断することもあり、スソ物の荷動きは鈍ってくるのが予想される。

フローズンは全体的に静かな展開となっており、在庫を抱えている業者も増えている。スソ物は、今後もチルドからの凍結回しとなるケースも多くなってきそうだ。

このような状況の中、12 月は出荷頭数の増加が予測される。例年通りの年末需要はあるものの、上場頭数に連動した相場展開になるものと予測する。

よって当市場の 12 月の加重平均は上物価格で 500 円前後、中物価格は 470 円前後と予測する。



東京都港区港南 2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127

URL <http://www.tmmc.co.jp/>